

## 2 アンケート結果概要

・全体を通して、前回（平成24年7月実施）アンケートと今年度アンケートの回答の選択傾向に大きな差異はみられなかった。

・問3で、「いまがんばっていること、力を入れていること」の問いに対して、「自分ひとりでゲーム」と答えた率が前年と比べて小学5年生では8.2%、中学2年生では4%増加した。また、小学校5年生では「勉強」「学校行事、活動」「地域のスポーツ等」「友達との遊び」との回答が前年に比べていずれも減少し、中学2年生ではいずれも増加している。

・問5-1から、小学5年生、中学2年生とも、ほめられた時や自分の言うことを聞いてくれるときだけでなく、注意してくれたり、しかってくれたりするのも、大切に思われているからと考えていた。

「気にかけてもらえる」ということが、大切に思われているということだと考える傾向がみられた。

・問6、問6-1で、小学5年生の88.3%、中学2年生の89.7%が「学校は楽しい」「どちらかといえば楽しい」と答えており、友だち、勉強、部活などいろいろな要因がある中で、楽しい場合も楽しくない場合も友だちを要因としてあげる子どもが多かった。

・問7-1は今回初めて設けた設問であり、「まわりでいじめがある」「いじめをみたことがある」と回答した小学5年生は38.7%、中学2年生は23%であった。小学5年生と中学2年生で15.7%も違いがあるのは、「いじめ」の捉え方が小学生と中学生で大きく異なるものと考えられる。

・問12でなんらかの相談窓口を知っていた（無回答含む）のは、小学5年生の47.1%（前年比2.9%減）、中学2年生の76.1%（前年比3.2%減）であったが、中学2年生では子どもの悩み総合相談室、ほっとスマイル子ども相談の周知度は前年に比べて増加した。これらは、毎年継続してチラシやカードを配布するなどの各相談窓口の周知を図った結果、認知度が上がったと考えられる。

・問17、問18から、子ども条例、子どもの権利ともに依然として半数が知らないと答えており、社会全体で子どもの成長を支援する環境づくりを進めるために、より周知を図る必要があると考えられる。

## 3 アンケート集計詳細

別添のとおり